

まんのう町教育委員会だより

爽風

そうふう

子どもの健やかな成長を願って

Vol. 26

令和3年【2021】

8月1日 発行

特集
特集

進む
ICTの活用



Contents

P.6~7 園・学校ウォッチング
仲南小学校・仲南こども園

P.8 外国語学習の強力な助っ人 ALT
P.9 シリーズ「声」

P.10 ホットニュース
P.11 関係機関から



ICTは教育に 3つの効果を もたらします!!

児童生徒や教職員を「支援」することを土台に、学びを「活性化」したり「最適化」したりすることが期待されるツールなのです。

学びを
活性化

学びを
最適化

学びを
支援

学びを**活性化**するって？

【学びの機動力】が高まる

ICTを活用することで、子どもたちは、自分の意見と友達の見解を画面上で照らし合わせながら考えを深めたり、自分の考えを表現力豊かにプレゼンテーションしたり、興味・関心を持ったことをその場ですぐに調べて記録・整理したりすることができるように、学びが**活性化**します。



画面上の友達の見解を読んで、自分の考えを見直す
(高篠小にて)

学びを**最適化**するって？

【教育の説得力】が高まる

ICTによって一人一人の習熟度を分析することができ、その結果に応じた課題を出すことが可能になります。つまり、個々の子どもに、**最適化**された学びを提供することができるようになるのです。

また、ICTによって分かりやすく「見える化」された学習の記録データを学校と家庭で共有すれば、それぞれの子どもに応じた、よりきめ細かな指導や助言が可能になります。



都道府県の名前と位置をいくつか覚えたら、タブレットでチェック
(琴南小にて)

学びを**支援**するって？

【学びの選択肢】が増える

ICTは、地理的制約や心身の障害、貧困など、様々な困難を抱える子どもたちの学びを**支援**できるツールです。

例えば、子どもたちは離れた地域の子どもたちと交流することで、広く多様な価値観に触れる機会を得ます。

また、先生方の業務の効率化も**支援**します。効率化により生み出された時間は、子どもと向き合ったり教材研究をしたりする時間に充てることができ、子どもたちの学びの充実へとつながります。



他市町の子どもたちと交流し、互いの町について知る
(長炭小にて)

参考：「教育ICTガイドブック Ver.1」総務省（2017.3.31発行）

進む ICTの活用

一人1台端末が実現した今、
授業やその他の教育活動は
どのように
変わっていくのでしょうか？

文部科学省の「GIGAスクール構想^{※1}」について萩生田文部科学大臣は、「一人1台端末環境は、もはや令和の時代における学校の『スタンダード』であり、特別なことではない」と、その実現に向けてのメッセージの中で述べています。

文部科学省は、当初「23年度までに」と「GIGAスクール構想」の実現目標を定めていましたが、新型コロナウイルスの感染拡大によりオンライン授業の環境を急いで整える必要が出てきたことから、20年度に前倒しました。

これにより、まんのう町でも昨年度末、すべての児童生徒に1台ずつ、タブレット端末が準備できました。また、例えば、生徒数が450名を超える満濃中学校で全校生が一斉にタブレットを使ったとしても、支障なくスムーズに動く高速大容量の通信ネットワークも、併せて整備しました。

これからの時代を生きていく子どもたちにとって、学校のICT^{※2}環境はなくてはならないものです。一人1台端末が実現したことにより、タブレット端末は、子どもたちにとって身近な文房具に進化していくにちがいないと思います。

これから先、学校は、授業や教育活動にICTをどのように取り入れていくかというところから、また、それによって、子どもたちの学びは、どのように変わっていくのでしょうか。



※1 GIGAスクール構想 = 義務教育段階において、全学年の児童生徒一人一人がそれぞれ端末を持ち、十分に活用できる環境の実現をめざす取り組み（一人1台端末と高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備する）

GIGA = Global and Innovation Gateway for All
(全ての児童生徒のための 世界につながる革新的な扉)

※2 ICT = Information & Communication Technology
(情報通信技術)

授業で生徒にタブレットの操作を指導



(担当: 満濃中・満濃南小・高篠小・仲南小)

ICT支援員

校内のICT環境は充実しましたが、それに伴って先生方には新たな業務が発生しました。それは、操作技術の習得やICTを活用した授業改善、機器の設置準備等です。こうした負担を少しでも軽減するためには、学校ICTの専門家である「ICT支援員」の力が欠かせません。

まんのう町は平成25年度から町内の学校にICT支援員を配置してきましたが、今年度も、川原寛史さん、山田倅愛さんの2名が、小学校には月2日、中学校には月4日程度、支援に入っています。

学級担任と授業の打ち合わせ



(担当: 琴南小・長炭小・四条小)

保健指導でも



実際の写真を見ながら絵に彩色(美術部にて)

部活動でも

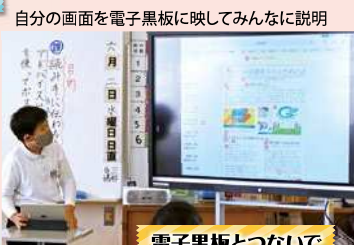


調べ学習でも



ここ、いいかも。撮っておこう

図工の授業でも



自分の画面を電子黒板に映してみんなに説明

電子黒板とつないで



みんなに見せたいプリントは撮影して電子黒板に映す

まず基本的な知識や技能を身につけて



1年生も基本的な操作を楽しく学ぶ

体育の授業でも



うまく回っているか録画でチェック!

ドリルでも



どんどん進むよ。算数ドリル

今、タブレットは、授業でどのように使われているのでしょうか? 町内の学校をのぞいてみましょう。



今 学校で進む さまざまな取り組み

～タブレット使用の日常化をめざして～



満濃中学校1年5組をのぞいてみると

「国語」



「技術」



一見同じように見える2つの授業風景ですが…



自分の作った詩を撮影して画面上に掲載しよう



友達と画面上で互いの詩を読み合い、4色の付箋を使って感想を伝える

交流していました



私たちの身の回りにはどんな材料があるだろう



木材・金属・プラスチックなどの特徴をタブレットを使って調べる

調べる活動をしていました

タブレット上で行われていたのは全く別の活動でした

学校行事でも



他にも、いろいろな使われ方があります。例えば、観客を入れずに運動会を実施した四条小学校では、PTA役員の尽力によりライブ配信が行われました。6台のカメラから撮影された子どもたちの演技の様子を、多くの保護者が視聴しました。



園・学校 ウォッチング

学校行事

6年生は、5年生の時に、仲南こども園の年長児との交流を行いました。こども園に行つて年長児の行う遊びと一緒にしたり、プレゼントを贈ったりしました。昨年度この交流のおかげで、今年度のスタートは、1年生と6年生の自然で温かい交流がたくさん見られました。

入学式

毎年、入学式では、6年生が1年生の手を引いて席まで案内しています。いつもの年なら、6年生と1年生は初対面ということが多かったのですが、今年度は、他園から入学した児童以外は見ず、互いに顔見知りでした。

おかげで1年生は、小学校生活のスタートを安心して始めることができました。また、入学後も6年生が1年生の教室に行つて、ランドセルの片づけをしたり、進んで世話をす姿もよく見られました。

春の遠足

例年、満濃池森林公園へ全校生で歩いていきます。そこで1年生の歓迎会を行います。今年は、4年がりに森林公園での歓迎会が実施できま



1年生を席まで案内



6年生に花を付けてもらう

仲南小学校では、全校生176名が8つのグループに分かれて活動する異学年交流やペア学年での活動、こども園との交流等を通して、子どもたち一人一人の自尊感情や自己有用感を育みたいと考えています。

異学年交流で 自己有用感を育む

仲南小学校



毎朝の集団登校

した。学校を発する時から8つの縦割り班に分かれて活動します。行き帰りは、自然に6年生が1年生を励ましたり、手助けしたりする姿が見られました。

満濃池森林公園で



こころを投げてごらん

として設定しています。「なかよしタイム」は、縦割り班に分かれ、班員が楽しめる活動を見守りながら自分たちの手で企画・運営する活動です。

1学期は高学年が企画・運営を担当しました。年度初めの「なかよしスタート会」では、自己紹介の後、みんなでドッジボールやケイトウをして遊びました。

企画した6年生は、特に低学年のことを考えてルールを作っていました。ドッジボールでは、1年生がボールを投げた位置が分からないうちに、そとその場所へ連れて行つたり、ボールを譲つたりしていました。

異学年と交流することで、自然と他者を労わる気持ちが芽生えてきます。教師は、子どもたちに任せる場を作ることを心がけ、交流の場で見つけた相手の思いや行動を積極的に取り上げ価値づけるようにしています。こうした取り組みを重ねることによって、子どもたち一人一人の自尊感情や自己有用感を育んでいけると考えています。

※「自己有用感」：自分への肯定的な評価
※「自己有用感」：人の役に立った、人から感謝されたという他者からの肯定的な評価
※「自己有用感」：自分を高く評価する、自分を高く評価する

なかよしタイム

毎月第2、第4木曜日の昼休みを「なかよしタイム」

と声をかけます。頼もしい限りです。

登下校

全校児童の約7割はバス通学、残りは徒歩通学です。徒歩通学の児童は、地区を単位として登校班を編成し登校しています。登校班には保護者や地域の見守り隊の方が一緒にきてくれます。

登校班では高学年の児童が班長、副班長になり、下学年を間に挟んだ形で並んで登校しています。正門に着くと、班長が号令をかけて、付き添つてきてくれた保護者や地域の方にお礼を言います。

下学年が並んでいなかったり、はっきりと挨拶ができていなかったりしたときは、班長が、「並んで」「挨拶はっ」と声をかけます。

保護者がかわることで遊びが豊かに

5月初め、4歳児の女の子が家からカラッソノエンドウを持ってきました。この豆、僕の家にもある。クリンピーミミイヤー。子どもたちは、興味津々に皮をむいたり、まことに使ったり。次の日から、「ほくも持つてきたぞ」「明日は私が持つてくる」「おまめブーム」が始まりました。帰りの時間には「そらめくんのベッド」の絵本をみて、ソラメの皮をむいてみたり、匂いをかいだみたり。『そらめくんのベッド』って、本当にかわいー！「いい匂いがする」「給本の世界と重なって、とてもいい表情をしていました。絵にも描いてクラスに掲示しました。子どもたちが楽しんでる様子も撮った写真をクラスの前に貼り、保護者の方にも見ていただきました。次の日、園で話を聞いたおじいさんが、それならと自分の畑のソラメを子どもに持たせてくれました。たくさんあるので、全クラスに届ける。どのクラスでも大喜び。5歳児のお兄さんやお姉さん、ソラメでお人形作ったよ。と、作った人形を見せに来てくれました。このように、子どもから始まった遊びを家庭にも伝えることで、時には保護者も一緒に遊んで、『ソラメの豆』とワクワクした。



そらめくんのベッドをつくる



ふわふわやり



黒い線がある...



大好きだから真剣です

「今日、これ食べた」「えっ、これ食べたの。すごい！おうちでも作るから食べてね」「うんー」それから、その日保育中に歌っていた「かえるのうた」を親子で楽しそうに歌いながら手をつないで帰ってきました。その姿が、なんとも微笑ましくて、こちらまで心が温かくなりました。

「コロナ禍で大変なときですが、こども園で過ごす日々が、子どもにとって保護者にとってもうれしい時間になり、楽しい」「明日も来たい」と思えるように、職員も力を合わせて、家庭とともに歩んでいきたいと思います。

温かいかわり



でんでんむしむしかたつむり

子どもも保護者も 安心して過ごせる園に

仲南こども園



ある日の園庭の様子

ながら子どもたちの発想の面白さに心を寄せ、遊びが段々と豊かになっていきます。

仲南こども園には、帰りに親子で寄つてく人気の場所があります。それは、給食の展示コーナーです。調理員さんが心を込めて作ってくれた給食を、毎日展示しています。

先日、職員室前の展示コーナーに2歳児が走ってきました。職員室でそとを耳を澄まして聞いて、後から来た母親とこんな会話をしていました。

「今日、これ食べた」「えっ、これ食べたの。すごい！おうちでも作るから食べてね」「うんー」それから、その日保育中に歌っていた「かえるのうた」を親子で楽しそうに歌いながら手をつないで帰ってきました。その姿が、なんとも微笑ましくて、こちらまで心が温かくなりました。



第12回 初めてのまんのう町

4月。今年度も各学校で、新しい先生方との出会いがありました。新しく来られた先生方の中には町内異動の人もいますが、一方で、「まんのう町の学校は初めて」という人もいます。

初めてまんのう町内の学校に赴任した先生方は、学校や地域にどんな感想を持ったでしょうか。その「声」を聞きました。

豊かな自然と明るく素直な子どもたちに囲まれて

4月から琴南小学校に赴任し、数か月が経ちました。緊張しながら初めて琴南小学校を訪れた時、周りに広がる緑と、そばを流れる土器川から聞こえるせせらぎや鳥の声に癒されたことを覚えています。それから始業式を迎え、新しい環境の中で、日々戸惑うばかりでしたが、明るく素直な子どもたちをはじめ周りの方々に助けられながら、少しずつ生活に慣れてきました。

そんな中、5月には運動会が開催されました。コロナ禍のため、当初予定していたプログラムの内容を大きく変更し、さらに、例年より早い梅雨入りで予定を行っていたこともできず、不安もありましたが、当日は青空の下、無事運動会が開催できました。練習や準備の段階から、上学年の子どもたちは大活躍。縦割りの色別活動でグループをまとめ、下級生に優しく接する様子や、最後に披露した表現演技で手足を大きく動かして生き生きと踊る姿に、頼もしさを感じました。

また、下学年の子どもたちも、力いっぱい音楽に合わせて体を動かして、退場する際には、思い思いのポーズでできらきらと輝く笑顔を見せてくれました。

授業やいろいろな活動を通して子どもたちと接する中で、全校生59名一人一人の個性も見えるようになりまし。清掃の時間、小さなほうきを手には一生懸命廊下を掃く子、毎朝、「おはようございます」と元気に職員室前を通っていく子、書写の授業で真剣に筆を運ぶ子、何気ない日常の中で見せてくれるそれぞれの表情に心も和み、いつも元気をもらいます。

これからも、子どもたちの新たな面や成長の様子を見守り、応援していきたいと思っています。



琴南小学校 教頭 前田 昌子

心こもった挨拶

私にとって満濃中学校は3校目の学校です。前任校は広島県の庄原中学校、2校目は観音寺市立豊浜中学校です。今年で教員11年目になります。異動はやっぱり不安です。新しい地域、学校に入ってからいけるのだろうか。

そんな中、4月がスタートしました。書類を印刷することさえも誰かに聞かなければならない毎日でしたが、ある出来事によって私は元気がやる気を得ました。それは授業に向かう廊下ですれ違った、ある生徒の挨拶でした。「おはようございます」

マスクをしていても伝わる最高の笑顔での挨拶でした。「なんて気持ちのいい挨拶ができる生徒なんだろう」と心の底から思いました。それはたった一回ではありません。すれ違う生徒のほとんどが、ただの挨拶ではなく、心こもった挨拶をしてくれました。

その他にも感じたことがあります。それは人の話をきく姿勢です。ある全校集会での校長先生のお話をきく場面です。上級生ほど校長先生のお話を「聞く」ではなく、しっかりと目を見たり頷いたりする等、体全身を使って「聴く」ことができていました。

私自身も学生時代は部活動に励み、礼儀と技術を学びました。挨拶の大切さや人の話をきく姿勢を教わったのも部活動でした。しかし、私が中学生の頃はできていなかったと振り返ります。朝の挨拶である「おはようございます」は、たった9文字の言葉ですが、この言葉に心がこもったとき人を元気にさせるのだと、満濃中学校に赴任して改めて感じました。

満濃中学校は新校舎になりまだ9年目という大変きれいな学校です。しかし、きれいなのは校舎だけではなく、ここに通う生徒の心もでした。まだまだ新天地のため、分からないことだらけですが、この満濃中学校の教員としてこれからも頑張っていこうと思います。



満濃中学校 教諭 高橋 正



外国語学習の強力な助っ人 ALT (Assistant Language Teacher)

まんのう町では、子どもたちの「英語遊び」や「外国語活動※」、教科「外国語※」の授業を充実させるため、こども園・小学校にALT(外国語指導助手)を2名配置しています。(※実際の活動や授業は英語を実施)

ALTは、ネイティブスピーカーとして発音の見本を示したり、外国語で子どもたちと自然な会話をしたり、外国語指導の視点から活動内容についての助言をしたりして、日本人教師の指導を助ける役割を担っています。子どもたちはALTと触れ合うことで、外国語や外国を身近に感じるようになります。それが外国語や海外に興味を持つきっかけになることもあるでしょう。

こども園に月1回、小学校に週1回、中学校には週3回訪れて、子どもたちとともに活動する2人のALTに話を聞きました。

英語の面白さを伝えたい



Noel Aurelio
(ノエル・アウレリオ)

【担当】
四条小・四条こども園・満濃南小・満濃南こども園
琴南小・琴南こども園・高篠小・高篠こども園

生まれはフィリピンのセブ島

まんのう町は緑がいっぱい。麦の焼けたにおいは、懐かしいセブ島のおいしさ。

香川は2度目

1度目は2010年～2014年。観音寺の高校にALTとして赴任しました。その当時、同僚に連れて行ってもらったうどん屋さんで食べた「えびちくうどん」は、忘れられないおいしさでした。

料理が大好き

趣味はCooking。トムヤムクン、味噌汁、豚汁などのスープや煮物が得意です。

Lunchに感激!!

まんのう町のLunch(給食)は最高においしいし、量も多くてうれしい。

まんのう町の子どもたちは勉強家です。英語が大好きで、わくわく感が伝わってきます。英語では、受け身にならず自分から積極的に話すことが大事です。今はコロナ禍で、思うようにコミュニケーションがとれませんが、早く思いっきり活動できるようになりたいです。

失敗を恐れず挑戦して



Joshua Townshend
(ジョシュア・タウンゼンド)

【担当】
満濃中
長炭小・長炭こども園・仲南小・仲南こども園

イギリスから来日して4年目

香川は自然が多く住みやすい。生まれ故郷のポストンと同じです。

難しいから挑戦!!

日本語に興味を持ち、大学2年から勉強を始めました。日本語は難しいと聞いたから。難しいことに挑戦するのが好きなんです。好きな日本の食べ物は寿司、まんのう町ではうどん屋さんへよく行きます。

マッチョをめざすドライバー

ジムに通って体を鍛えています。車を運転するのが好きです。ナビを使わなくても、迷わずに目的地まで行けるのが自慢です。

楽しく前向きに

子どもたちと一緒に、英語でゲームをしたり遊んだりするのが楽しいです。子どもたちに分かりやすく伝えること、全員できているか、きちんとチェックすることを心がけています。子どもたちは前向きに楽しく取り組んでいます。英語で会話をするのを恥ずかしがる子が多いので、失敗を恐れず自信をもって挑戦してほしいです。

すべての子どもに 安心・安全な学びの場を

～まんのう町適応支援センター『いくむ』の役割～

少子化で児童生徒数は年々減少しているにもかかわらず、不登校の児童生徒は年々増え続けています。「不登校」とは、「何らかの心理的、情緒的、身体的あるいは社会的要因・背景により、登校しないあるいはしたくともできない状況にあるために年間30日以上欠席した者のうち、病気や経済的理由によるものを除いたもの」と文部科学省の調査で定義されています。

その調査の最新の結果によると、令和元年度の香川県の不登校児童生徒数は、小学校285人、中学校838人でした。

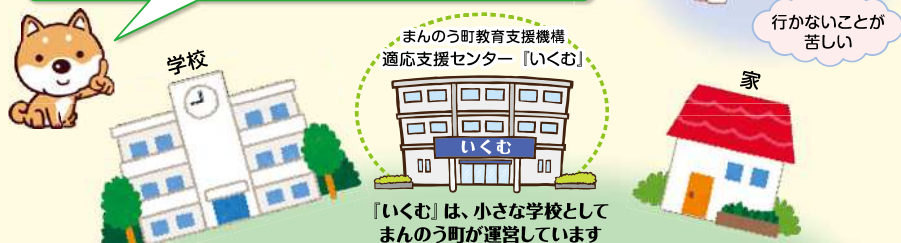
文部科学省は令和元年10月25日付通知の中で、「不登校児童生徒への支援は、『学校に登校する』という結果のみを目標にするのではなく、児童生徒が自らの進路を主体的に捉えて、社会的に自立することを目指す必要がある」としています。



- 不登校は特別な子どもがおちいるものでなく、誰にでも起こり得るものです。
- 不登校は、子どもが自らの心身を守るための行動でもあります。
- 「学校に行かなければならない」という思い込みが、学校を休むことで回復するはずの症状を悪化させ、結果として長期間、その子の学習の機会を奪う結果となります。

教員、保護者、地域それぞれが不登校を正しく理解し、一人一人の子どもに合わせて柔軟に対応していくことが、すべての子どもに安心・安全な学びの場を保障することになります。

不登校児童生徒が選ぶ居場所の選択肢の一つとして、まんのう町には「適応支援センター『いくむ』」があります。



- 『いくむ』の出席は、学校の出席になります。
- 学校で使用しているワークやプリント類は、同じように受け取ることができます。
- 学習したいと思うようになったときのために、教具や資料などを準備しています。
- また、『いくむ』で取り組んだテストやプリント・ワークなどは、学校に提出すれば評価され、通知表に反映されます。
- 学校行事などに参加したいときは、『いくむ』の指導員と一緒に学校へ行くことができます。

『いくむ』では、指導員が本人や保護者の思いに寄り添いながら、自立に向けて支援します

入級等についてのご相談は、下記いずれかの窓口まで

- 各学校
 - いくむ (090-5272-9362)
 - SSWer 武川【満濃中・琴南小・四条小・仲南小担当】(080-2852-6306)
 - SSWer 田岡【満濃中・長炭小・満濃南小・高篠小担当】(090-7625-6280)
- ※どの窓口からの相談であっても、入級の決定にあたっては、学校と連絡を取り合いながら行います。

2年ぶりの運動会



＜実施日＞

5月22日(土) 四条小・四条こども園
23日(日) 琴南小・琴南こども園
長炭小・仲南小
29日(土) 満濃中
6月5日(土) 高篠小・高篠こども園
長炭こども園: 秋に延期
満濃南小・満濃南こども園: 秋に延期
仲南こども園: 例年秋に実施



今月の一枚

だいじょうぶ! ゆっくりね

仲南こども園にて

編集後記

まっすぐな線を引くには「定規」を使います。自分の考えを書くには、「鉛筆」と「ノート」が必要です。子どもたちが日常の学習場面で当たり前にする文房具。一人1台端末が実現した今、今度はこの「タブレット端末」を、これら文房具の一つにしていこうと、学校では様々な試みが行われています。果たして、その実現は可能でしょうか。

「グライダー」と「飛行機」を例に挙げて人間の思考の本質を説いたのは、長くお茶の水女子大学などで教鞭をとやまげひこ執られた外山滋比古さん。昨年7月に96歳で亡くなりました。1983年に刊行されたその著書『思考の整理学』（筑摩書房）は、2008年に東大・京大生協の書籍販売ランキングで1位を獲得し、以来たびたび1位に輝いてきたロングセラーです。

「グライダー」能力と「飛行機」能力、これら二つの違いは、自力で飛び上がれるか否かです。前者は、先生と教科書に引っ張ってもらって受動的に知識を得ている、それに対して、後者はエンジンを積んで自分の頭で考え、自力で飛び回ります。この二つの能力はひとりの人間の中に同居しているものですが、その割合は人によって異なります。

記憶と再生が知的活動の中心であった時代には、飛行機能力などまるでなくても優秀な人間はたくさんいたと

外山さんは言います。ところが、「コンピュータ」という飛びぬけて優秀なグライダー能力の持ち主が現れた今、飛行機能力は不可欠となり、「自分の頭で考える力」の育成が何よりも重要だと述べているのです。

これからの教育は、人間がどう逆立ちしても敵うはずのないコンピュータの得意分野で張り合うことはやめ、むしろそういった分野はコンピュータを最大限有効に活用しながら、自分の頭で考え、自力で飛ぶことのできる力を育てていかなければならないということでしょう。そうすれば、タブレット端末は子どもたちにとって、その学びを支援してくれる最高の文房具となるに違いありません。

教師の指示通りに時々使用するのではなく、子どもたちが自分の意志で日常的に活用できるようにしていくためには、その前に立ちはだかる壁を一つ一つクリアしていく必要があります。保管の問題も、その一つでしょう。

文房具にすることを考えれば、子どもたちがすぐ手に取れることは重要です。けれども、定規やコンパスなどに比べ格段に高価で精密な機械であるタブレット端末は、故障や破損から守るための配慮が必須です。学校、家庭、教育委員会それぞれに工夫が求められる問題だと言えますでしょう。

(Y. T)

表紙絵：東山 正章（元満濃中学校長）

次号予告
(10月1日発行)

特集 みんな大好き! おいしい給食 ~人気の献立、紹介します~
園・学校ウォッチング 四条小学校・四条こども園

発行責任者：まんのう町教育委員会

〒769-0313 香川県仲多度郡まんのう町生間415番地1
TEL (0877) 89-7100 FAX (0877) 89-8100